※令和３年度以前入学生用

学校番号	２２０１

令和５年度　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	2	年次	２～４
使用教科書	高校美術２（日本文教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

美術Ⅰで学んだことを基礎にして、さらに発展した応用的な表現や技法を学びます。
絵画・デザイン・立体・鑑賞を学び、作品制作をしていく上で「自ら考える」ということを大切に、自ら考え、挑戦し試し発見し、より良い作品を作り続けることでこれまで学んできた内容や美術の経験をより深めていきます。
それぞれ一人ひとり、思いや見方、感じ方考え方が違います。個々の考えの違いを他者に伝えることや、他者からの評価を自分の制作に生かすことが出来るように鑑賞の時間も大切にします。

2　学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	多様な表現方法を知り作品を作ることや鑑賞活動、美術文化に関心を持ち、主体的に自己の表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする	感性や想像力を働かせ、感じ取ったことや考えたこと、テーマや目的や機能、美しさなどから主題を考え、独自で創造的な表現の構想を練っている	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を工夫している	美術作品などの表現の工夫や作者の意図、美術文化歴史的背景などを理解し、身につけている
評価方法	製作途中の作品 提出作品 授業態度	製作途中の作品 提出作品 授業態度	製作途中の作品 提出作品 授業態度	ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	月	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期	4 5 6	発展的な基礎を学ぶ	【絵画】 木炭デッサン 木炭紙、練り消しゴム、パンを使用し古典的なデッサン方法を学び取り組む。	○	○	○	○	a:木炭の性質を理解しようとしている b:自らテーマを決め、組み合わせを創造的な作品作りに取り組もうとする c:木炭ならではの表現方法を使用し表現しようとしている d:木炭を通して美術の歴史的背景を学ぶ	学習活動の様子 制作の様子 提出作品
	7 8	日本美術の文化に触れる	【絵画】 日本画 日本美術の背景や歴史を学んだ上で、日本画用絵の具である水干絵の具、色紙を使用し、日本画の作品制作に取り組む。	○	○	○	○	a:日本画らしい表現に興味を持ち日本画絵の具の性質や美しさを追求し、表現しようとする b:日本画の歴史や絵の具の特徴を学び、日本画を意識した作品作りをする c:日本画用絵の具の使い方を理解し正しく使用し表現しようとする d:日本画の歴史、背景を学ぼうとする	学習活動の様子 制作の様子 提出作品
後期	9 10 11	立体的な作品で表現する	【立体造形】 お面制作 顔を立体で表現するお面を制作する。デザインした絵を元に立体的にお面に起こしていく。	○	○	○		a:多種多様なお面のデザインを見て、自由に発想し主体的に取り組もうとする b:イメージするデザインを表現しようと構想を練り、素材を考え、表現しようとする c:デザインにより合った素材を使用し表現方法を工夫し表現しようとしている	学習活動の様子 制作の様子 作品
	12 1	自画像と自由な発想	【絵画】【デザイン】【鑑賞】 自画像 鏡を見て、自画像に取り組む。素材、表現方法、題材などを自画像とともに自由に表現する。	○	○	○		a:表現することに興味を持ち、自分のよさを積極的に表現しようとする b:自分の顔をよく観察し特徴を捉えた上で、発想し自由に表現する。 c:顔を表現するために鉛筆や線を使い分け素材を工夫することができたか	学習活動の様子 制作の様子 作品
	1 2	シルバー製品の作成	【美術工芸】 シルバー粘土を使用し、デザインしたシルバー製品を製作する。	○	○		○	a:表現方法により様々な道具を使い分いけ表現できたか b:使用することを創造し自ら望んだデザインとして表現できたか d:銀やシルバー粘土の特性を知り、理解できたか	学習活動の様子 制作の様子 作品

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　　b:発想や構想の能力
c:創造的な技能　　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。